

敬老のつどい 栄区の最高齢は 104歳 女性



発行人 会長 亀澤 弘

今年の暑い夏を象徴する
ようなお天気に恵まれて9
月19日に「敬老のつどい」
がやってきました。
第一部の式典は、尾仲区長
をはじめ、来賓の方々からお
祝いのお言葉を頂きました。
今年初めて座席を、町内会
自治会別に枠組みをしてみ

プログラム

第一部 (式典)

- ・ 開会のことば
- ・ あいさつ
- ・ 来賓あいさつ
- ・ 御礼のことば
- ・ 閉会のことば

第二部 (演芸)

1. 本郷小学校
マーチングバンド
2. 「みんなで唄おう」
チームやぎさんズ

第三部 (ゲームで楽しむ 抽選会)

青少年指導員の
皆さん



ました。
ご近所の方々と一緒に楽
しんで頂けたらとの思いです。
「近くにいっても顔を合わせ
る事が少ないのに、ここで会
えて話が弾みました」こんな
嬉しいお言葉も頂きました。
皆様のお言葉、お気持ちを
頂きながら、来年へ心が動い
ています。
第二部のアトラクション
では本郷小学校のマーチン



グバンドの演奏です。
体より大きな楽器での演
奏・児童による説明・楽器
の名前の紹介も、とてもよ
かったです。
多くの保護者の応援も加
わり、三世代交流の場になり、
大きな拍手が鳴り響きました。
「みんなで唄おう やぎさん
ズ」の出演には、参加者から、
こんなコメントも頂きました。
「五十年以上前の若かった
頃の歌を唄ったら、青春時
代を思い出し、久し振りに
全身を駆け巡る熱き血潮を
感じました。唄う事が嫌いな
方もおられるでしょうから、

毎年は無理でしょうが、数年に
一度の企画をお願いします」
この言葉を聞いて、懐かしく
喜んで頂けたと感じ、意欲が湧
いてきました。
第三部のゲームで楽しむ
抽選会で大当たりの笑顔で帰
る顔と「来年も来ますね」の言
葉とお土産の花小鉢を笑顔で
見送りました。



盛りあがったぞ

第21回 いたち川

いかだまつり

いたち川いかだまつり

実行委員会 滝口 稔

平成23年4月、亀澤会長のもと、継続的に楽しいまつりを行えるように実施の体制を確立して、8月21日と決め準備をいたしました。

ところが、8月21日は、数日前から雨、当日も雨が降り続き、残念ながら28日に延期する事になりました。

28日快晴、この日は本当に



いかだまつり日和となりました。通常、イベント等が延期すると参加者は減少するものです。果たして参加者はどうなるか心配をしました。ところが子供だけでも333人、保護者及び関心のある区民の方々を加え総勢800人という、過去最高の集まりのイベントになりました。「まつり」は主催者を代表して、本郷中央地区社会福祉協議会長の亀澤会長の挨拶からはじまり、続いて、尾仲区長、臼井栄区商店連合会長、加えて本多栄区連合町内会長の挨拶。その話があり、イベントがスタートしました。

の楽しみで行列が続きました。殊に今年購入した一人乗りゴムボートは予想以上に喜ばれました。この事は保護の行き届いた環境の中で育っている子供にとって、自分一人でボートを操作するなんていうことは、ものすごく新たな挑戦で、楽しいことなのでしょう。ライフジャケットを着て自分の番をじっと待っていました。尾仲区長もいかだに乗って楽しんでくれました。更に今年は、本中と桂中の生徒が十数人手伝ってくれたことは、大いに助かったと同時に感激です。これも両校校長、教員の方々の後押しがあったことで、まつりの雰囲気も更に楽しいものになりました。今年は開催時間を14時までと1時間延長しましたが、そのせいか参加者は途絶える事なく終了時間を超えてしまうほどでした。終了宣言をしたのも、14時をすでに過ぎていました。このイベントを支えた多くの実行委員会のメンバーの皆様のご苦労のお陰です。

キャンプ in 野島 2011

青少年指導員 橋本哲芳

本郷中央地区恒例の子どもキャンプ「キャンプ in 野島」を7月16日〜17日（泊2日）、野島公園キャンプ場で開催しました。小学3年生から中学2年生までの参加者40名、青少年指導員・体育指導委員のスタッフ27名、合わせて67名と大所帯でしたが、お天気にも恵まれてとても充実した楽しいキャンプになりました。

今年は東日本大震災、特に津波被害の教訓をもとに、公園内の展望台までの避難訓練を行い、万一の場合に備えた上で、



自分達で寝るテントを張り、覚えたてのロープワークでゲームをしたり、薪割りや火起こし、野外での炊事、みんなで賑やかな食事など、楽しい野外生活を体験学習しました。

更に、野島公園ならではの「潮干狩り」、歌やダンスで盛り上がった「キャンプファイヤー」、班対抗戦で競い合った「ドッチビー」、テントの中ではお友達と話したりゲームをしたりと、とても充実した2日間を過ごしました。

子ども達の楽しそうな笑顔や一生懸命の真剣な顔・・・来年もまた元気な子ども達と一緒にキャンプに行けることを楽しみにしています。



私たちの地域福祉を支える人々

.....この方々に伺いました

- ① あなたの組織の昨今活動状況。
- ② 「地域社協」に対してのお考え。

黒瀬 浩子氏 (NPO法人こだちの会 理事長)



① 「こだちの会」は平成14年10月に精神障害者のグループホームを設立する目的で立ち上げた市民グループでした。

ところが、平成18年に自立支援法が出来、グループホーム運営には法人が望ましいとの国と市の方針で私たちの任意団体「こだちの会」もNPO法人となりました。

NPO法人「こだちの会」が運営するグループホームは現在公田町にある一箇所です。男女6名が生活しています。原則として日中はそれぞれが活動する場へ行って支援を受け、夕方から翌日の朝までグループの利用になっています。

お陰様で地域の方々からは暖かいご支援と見守りを受け、利用者は安心した地域生活を送っています。ただ親の高齢化が進む中、栄区にあと一箇所は必要ではないかと考えています。支援体制を整える「こだちの会」理事たちも日々話し合いを重ね、より良いグループホームになるよう努力しています。

② 社協関係者を始めとし、多くの市民の方々に障害者が安心して生活できる場の見守りを切に願っています。

星 明男氏 (栄地域通貨イタツチ)



地域福祉と地域通貨
① 当地区社協の中に「地域通貨研究会」が産声を上げたの

が平成17年、6年経過した現在、184万2千円相当の地域通貨イタツチが発行され、地域の助け合いや支えあいの活動の一助になっております。

私たちは、地域通貨をツールとして、栄区がコミュニケーション豊かな社会となることを夢見ております。

一言も話さずに買いものができる社会ですが、イタツチを利用し、互いに心の通った会話を交えて買い物を楽しむ地域社会を作りたい。

また、お互いに物心両面のサービスのやり取りをする際、それに対する感謝の気持ちとしてイタツチを手渡し、心のコミュニケーションを通わすことこそが、地域福祉の原点とも思っています。

② 以上の活動を盛り上げるため、地域通貨の流通拡大、買い物ができる協賛店の増加を図り、地区社協活動の一助になりたいと思っています。

三好三代子氏 (桂公田おしゃべりサロン代表)



「桂公田おしゃべりサロン」は平成15年11月「住み慣れた地域で元気に暮らそう」を

モットーに桂公田町会会員、椎郷台自治会の高齢者を対象に発足しました。毎月第3月曜日10時から12時、現在月平均40名が参加し、桂公田町会女性部と椎郷台自治会の役員が毎月持ち回りで、企画運営しています。

特に3月の震災以降、不安な日々の中、家族、地域のひととの絆の大切さ、優しさが求められています。次回を心待ちして頂けるよう楽しく、充実した内容にと頑張っています。

9月は「本郷の民話と伝説」の本から朗読とお話、目から鱗の興味ある地域の民話でした。

10月は「フラダンスでちょっと素敵にエクササイズ」です。元気になります。

サロンの活動には、地区社協、町会、民生委員、桂台ケアプラザ等々多くの協力があります。その中で自分たちの地域が少しでも住みやすい地域になるようサロンから広げていきたいと思えます。

高野 桂子氏 (更生保護女性会理事)



更生保護女性会活動と地区社協に思う事。
私は、更生保護女性会活動に参加して早や7年目を向かえました。

さまざまな事を体験させて頂きました。現在理事になり少々多忙になりましたが、更生保護思想がしっかり判るようになりました。地区社協の協力がなければできない事も判りました。年間スケジュールを通して大きなイベントが3回あり、その他研修会が入っています。

1. 社会を明るくする運動の講演
2. バザー
3. 施設見学 等々があります。

一つ一つ関わって行く中に勉強になっています。ともすると無関心になっている世の中で私もその一人になっていたでしょう。広く心を開くチャンスになっていると思う昨今です。

更生保護女性会へ男性も参加して下さるようになりました。会長さんも喜んで下さっています。そしてこの度の東日本大震災に会われた方々の少しでも心を寄り添っていかねばと思えました。助け合える心はすぐには行動には移っていきませんが、更生保護女性会に参加して行動の重要性を学びました。

